

スリランカの旅（3泊4日）

1 はじめに

アイボワン（こんにちは）。世界遺産検定マイスターの玉田文夫です。私が世界遺産に興味を持ち海外旅行に行くようになってから3年になります。基本的に一人旅ですが、今回紹介させていただくスリランカは、ガイド付のツアーで申し込みました。それでは、宝石を多く産出し、多数の世界遺産があるスリランカへ、セレンディピティ（偶然の出会い・発見）を求めて出発！

2 12月25日（日）成田からコロンボへ

成田空港を出発して約8時間、コロンボ空港に到着しました。東京の寒さから一変して暖かく過ごしやすかったです。空港の出口付近でガイドさんが待っていました。「こんにちは。今回はお客さん1人ですよ。私と運転手の3人、楽しいね」「えっ、私1人ってそんな贅沢な！」嬉しさと緊張の入り混じる中、ホテルに到着しました。



（中央）ガイドさん（左）運転手さん



ホテルの浜辺からのコロンボ市街

3 12月26日（月）シーギリヤの古代都市

今日は一番楽しみにしているシーギリヤ・ロック（約200mの岩山）を観光します。コロンボから車で約5時間。車内でシーギリヤの歴史について詳しく教えてもらいました。以下でこの世界遺産に深く関係のある人物を紹介します。

その人物は、シーギリヤ・ロックに宮殿を築いた、5世紀のシンハラ王朝の王、カッサパ1世

です。カッサパはクーデターをおこし、父王を殺害して王となりました（クーデターの際、カッサパが父に財宝を要求すると、父は貯水池の水をすくって、これが宝だと答えました。からかわれたと思ったカッサパは父を殺害したのですが、人々のために築いた貯水池が父の宝だったのです）。しかし、善行の父を殺害したカッサパを支持しない者は多く、また、母親が王族出身の弟もいました（カッサパの母は平民）。弟の反逆を恐れたカッサパは、シーギ



シーギリヤロック

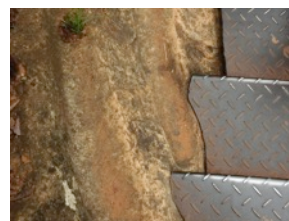
リヤを本拠地として兵を集め、岩山の頂上に宮殿を築きました。一方、弟はインドに渡って兵を集めました。その後、インドから戻った弟と戦争になりますが、カッサパは敗れて自害します。遺体はその場に埋められ、シーギリヤ・ロックは僧に譲られました。再びシーギリヤが世の注目を集めたのは、イギリスが再発見した 19 世紀、約 1400 年後のことでした。

さて、シーギリヤの観光です。庭園入口には敵の侵入を防ぐための濠があります。そのまま真っ直ぐ進むとシーギリヤ・ロックの入口ですが、「その前にぜひ見てもらいたいものがある」とガイドさん。私が案内してもらったのは、下の写真の壁です。



左の写真ですが、レンガの壁が岩と一体になっています。これは、元々あった岩を撤去せずに活かして壁としたものです。ではどうやって一体にしたのかというと、岩に窪みを作ってそこにレンガをはめたのです（写真右）。ガイドさんは「活かすというスリランカの発想と技術を外国の方に知ってもらいたい」という思いで説明をしてくれました。そのような思いを持つことは、観光立国を目指し、世界でも類まれな木の文化と技術を持っている日本にも必要なことだと思いました。

さあ、いよいよシーギリヤ・ロックに登ります。が、今日はクリスマス翌日の振替休日。すごい人の数です。ガイドさんも「こんなに混んだのは初めてだ！」とびっくりです。なんとか中に入り頂上を目指して登ります。「高い、怖い！」（少し高所恐怖症）風も強く、人が多いので休むこともできません。登頂後は足ガクガクでした。王様はリフトで登ったそうです。羨ましい。



階段！

ようやく宮殿の入口に来ました。築城当時はライオンの顔がありました。その名残がライオンの足。入口はライオンの喉（シーギリヤの意味）に当たります。これからライオンの喉に入って頂上を目指します。



高所の恐怖と筋肉痛に打ち勝ってようやく登頂です。登頂記念に写真を撮ってもらいました。頂上からの景色は絶景、まるで天空の城です。どうやってこんな高いところに宮殿を築いたのでしょか？レンガについては謎が多いのですが、岩とレンガを一体にする技術を用いて宮殿を築いたとのこと。宮殿跡には、王の椅子がありました。カッサパはそこから 500 人の妻の踊りなどを見て楽しんだそうです。その椅子は、背もたれの周囲にある溝に雨水が流れることで、熱くなった椅子を冷やす、という自然のクーラーが設置されています。至れり尽くせりですね。



祝・登頂



絶景かな！



王の椅子(写真下)

さて、シーギリヤ・ロックで忘れてはいけないのが“シーギリヤ・レディ”です。壁に描かれた天女を楽しみに来たのですが、残念ながら今年から写真を撮れなくなりました。脳裏に焼き付けて帰ります。当時は約 500 体の絵があったのですが、現在残っているのは 22 体だけです。残った秘密は描き方にあります。粃殻・泥・牛の糞でペーストを作り、乾かないうちにその上に約 12 時間で描くというもの。指が 6 本の天女もいますが、絵描きさん、焦ったのでしょね。

その天女を映していた壁が“ミラー・ウォール”です。カッサパは映し出された天女を見て楽しんだそうです。壁には旅行者がシーギリヤ・レディの感想などを詠んだ詩が書かれています。「もうここを離れたくない」「私に話しかけてくれ」など。ロマンティックですね。

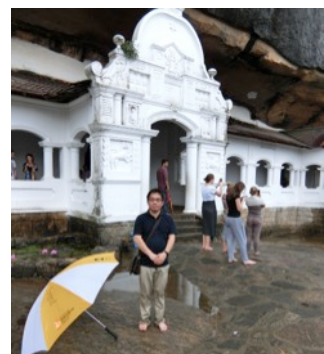


右奥少し光っています。

世界でも稀な天空の宮殿、シーギリヤ・ロック。“顕著な普遍的価値(OUV)”を十分に備えた素晴らしい世界遺産でした。その宮殿を築いたカッサパ 1 世。彼の心の内はどうだったのでしょか。父を殺害し権力を手にしましたが、満たされることはなく、この宮殿で天に許しを乞うたのかもしれない。

4 12月27日(火) ダンプッラ石窟寺院

今日は朝からあいにくの雨です。雨にも負けず世界遺産ダンプッラの石窟寺院を巡ります。スリランカは人口の約 7 割が仏教徒です。敬虔な仏教徒が多く、日本と違って寺院内は裸足です(靴下も脱ぐ)。雨の中を裸足で歩くのはきつかったです。さて、この石窟寺院には雨が建物に入らないように、ある工夫がされて



います。それは建物を覆っている岩の縁に施されている溝です。右の写真のように溝のところで雨水が外に排出され、中に入りません。う～ん、賢い。



いよいよ最初の石窟に入ります。そこには巨大な涅槃像が祀られています。お賽銭の代わりに蓮の花を捧げます。次の石窟にはダンプッラ（岩の水が出る口）の由来となった場所があります。そこには壺が置かれていて、天候に関わらず毎日決まった時間に天井の岩から水が落ちるのです。仏様の力でしょうか。また、多くの仏画が描かれており、中でも悪魔と応対する釈迦の絵が私のお気に入りでした（前世の徳によって地球の女神が私を守ってくれているから悪魔は怖くないと応対する釈迦。手の先に地球の女神が描かれている）。敬虔な気持ちになって寺院を出ると、青空が広がっていました。



涅槃像



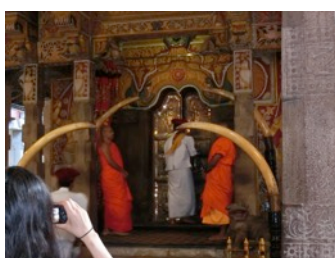
ダンプッラ由来の場



悪魔と応対する釈迦

5 12月28日（水）聖地キャンディ

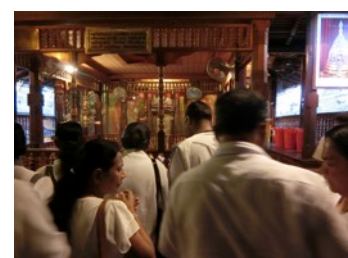
いよいよ最終日、今日はシンハラ王朝最後の都、世界遺産の聖地キャンディを訪れます。キャンディには、4世紀にインドの王女のもたらした、仏陀の歯を祀る仏歯寺があります。仏歯は王の権威の象徴であったため、宮殿内に仏歯寺が建てられました。ですから、現地では仏歯寺をパレスと呼びます。寺院は2階建てで、1階には供物を納める部屋、2階には仏歯を祀る部屋があります。仏歯を祀る部屋の前には日本の提供した防弾ガラスがあります。また、日本の資金で天井には18金の蓮が描かれています。日本の国際貢献について問われることは多いですが、このような自国の国際貢献を日本人はもっと知るべきだと思います。



1階 供物を納める場面



天井 18金の蓮



2階 仏歯の部屋の扉

さて、仏歯を納めている部屋の扉は午前・午後の決まった時間に開かれて、その時間だけ仏歯（宝箱に入った状態ですが）を目にすることができます。ガイドさんと運転手さんは、朝の早い時間でしたが、私が仏歯を拝めるように付き合ってくれました。ぱっと扉が開かれて光り輝く仏歯の宝箱を拝んだ感動は一生忘れません。

毎年8月、キャンディではペラヘラ祭りが開催されます。その祭りでは仏歯を背に乗せた象が寺から出てきて街を歩きます。その時、キャンディの街は世界各地の人でいっぱいです。ちなみに、仏歯を乗せる象（名前はラージャ）は、鼻や尾が地面につく、賢いなど7つの条件を満たす必要があります。



仏歯を運ぶラージャ

帰る時に、右の写真の石段中央にある、顔をゆがめて重いものを持ち上げている格好のレリーフについて説明をしてもらいました。「そのレリーフは、自分で自分の心を苦しめている人の姿。そのような苦しみ・煩惱は誰もが持っており、救いを求めて寺院を訪れる」とガイドさん。「なるほど、この1年を振り返ると自分にもそういう時があったな。来年は笑顔で頑張ろう」と私はしみじみ思いました。



空いた時間で街を裸足で散策しました。世界遺産の素敵な街並みは1年の疲れを癒やしてくれました。



街並み（湖は人造湖）



警察官



エリザベス女王が滞在されたホテル

6 おわりに

ガイドさんと運転手さんは、早朝の仏歯寺訪問など予定外の活動を私のために入れてくれました。感謝の言葉を述べると、「あなたのためにしたことは私のためにもなっている。“徳”を積み、人生を豊かにできるのだから」と優しく応えてくれました。“徳を積む”という発想を持てば、人間関係を豊かにし、日本の社会はもっと優しくなるのかなと思いました。

世界遺産を巡ると日本を相対的にみることができます。国外の遺産・社会・人と触れ合うことで、気づくことが多くあります。今回の旅行で、国際社会で日本人が誇りをもって生きていくために、世界遺産を学ぶことは大切なことだと実感しました。